

# 伊豆大島火山 1986年噴火(緊急速報)

中野 俊・星住 英夫(地質部)・曾屋 龍典(環境地質部)

Shun NAKANO

Hideo HOSHIZUMI

Tatsunori SOYA

1986年11月15日夕刻 伊豆大島火山が噴火を開始した。1974年の小噴火以来12年ぶりの活動であるが今回ははるかに大型の噴火である。旧火孔を埋めつくした溶岩は 19日に内輪山(三原山)からあふれ出しカルデラ底に達した。11月21日16時15分 突然三

原山北側のカルデラ底で割れ目噴火が始まり 17時46分には外輪山斜面(有料道路付近)でも割れ目噴火が始まった。外輪山斜面の火口から流出した溶岩はその後ふもとの元町地区にせまり このため 大島住民は全員島外への避難を行った。



口絵I-1 山頂火口における溶岩噴泉。溶岩が連続的に火口から噴き出している。(11月17日12時頃撮影)



口絵I-2 内輪山からあふれ出した溶岩流。山頂では間欠的に爆発音を伴って火山弾を放出している。(11月19日19時頃撮影 御神火茶屋より)



口絵1-3 11月19日に内輪山からあふれ出した溶岩流 (12月17日撮影 三原山上空より)



口絵1-4 山頂火口から放出された火山弾、内輪山を越え 火口の東方500m地点。(11月21日10時頃撮影)



口絵1-5 11月21日に開いた剣ヶ峰北西の火口列、写真上部が内輪山の内側、右側2つの火口からは溶岩が流れ出した、(12月16日撮影)



口絵I-6 11月21日山頂火口より放出された火山弾の衝突孔、写真4 とほぼ同じ地点、(12月17日撮影)



口絵I-7 カルデラ底の割れ目噴火。元町より外輪山越しに望む。(11月21日17時半頃撮影)



口絵I-8 外輪山斜面での割れ目噴火。この頃はすでに活動は下火になっている、手前(下)の明るい部分は 元町地区にせまりつつある溶岩流。(11月21日20時頃撮影 大島警察署屋上より)